

令和 6 年度 奈良女子大学研究推進プロジェクト経費研究報告書

奈良女子大学長 殿

研究代表者

所 属 ・ 職 研究院人文科学系・准教授

氏 名 狗巻修司

本年度の交付を受けた研究推進プロジェクト経費について、下記のとおり報告いたします。

申請区分	☒ (A) 多様な人材の協働による研究
	☐ (B) 一般研究
研究課題	発達障害児の自律的な「居場所づくり」に向けた心理的支援と、心理専門職の専門性向上にむけた実習プログラム開発事業

1. プロジェクトの成果（研究推進プロジェクト経費が交付された期間に、この研究によって得られた新たな知見等の成果を、申請書の「研究目的、研究計画・方法」に対応させて記載すること。また、支出内訳との関係についても記載すること。）

2 ページ以内で記載してください。

本プロジェクトは発達障害のある児童が自律的に「居場所づくり」を行うために必要となる心理支援のありかたと、心理専門職養成段階における専門性の向上に向けたプログラムを開発するための基礎的データを収集することを目的として実施したものである。

2025 年 3 月に「ねいらく」利用者の保護者に対して質問紙調査のプレテストを行った結果、長期にわたる「ねいらく」以外の複数の居場所利用が確認された。このことから「ねいらく」で調査を実施する場合、「居場所」としての心理的効果測定における信頼性が懸念された。また、本研究の目的の一部である発達障害児の自律的な「居場所づくり」のプロセスを検討するには、主たる居場所として利用されやすいフリースクールでの調査の妥当性が考えられた。

2025 年 4 月と翌年 3 月にフリースクール SINCE で調査を行った。第 1 回目の調査では、15 名(男 14 名, 女 1 名; 平均年齢 11 歳 ($SD=4.81$); うち 4 名に発達障害の診断あり)の利用者の親と支援者が主な対象であった。親評定では、子どもの居場所感(充実感・自己存在感)と情緒的 well-being との間で正の相関(ともに $r=.62, p<.05$)や、親評定の被受容感と支援者評定の情緒の困難さとの間で負の相関がみられた($r=-.53, p<.05$)。さらに、1 年間の量的な変化については、親評定による居場所感のうち、子どもの自己存在感の有意傾向の向上がみられた ($Z=1.73, p=.08$)が、その他の変化は有意ではなかった。また、自閉スペクトラム症のある子どもの過去半年間の質的な変化に関しては「話す言葉がポジティブになった(14 歳男児)」や「自らの気持ちを伝えるようになった(9 歳男児)」等の回答が得られた。一方、支援者評定では、子どもの総合的な困難さが有意傾向で減少した ($Z=-1.93, p=.05$)。前回の調査時から支援者が心掛けてきた支援内容として、自己決定の促進、意思の尊重、話し合いの場を設ける、子どもの興味のある活動への伴走等があげられ、これらの支援アプローチの有効性が示唆されたといえる。

加えて、公認心理師の心理実習施設として生駒市教育関連施設に伺い、「いきいきほっとルーム」(子供の居場所・学び支援室)をはじめとする不登校児童の支援の取り組みについての知見を得た。これにより、本プロジェクトの目的の一つとしていた不登校支援を行う心理実習プログラムの開発を見据え、実習先施設との連携をより深めることができた。

【研究プロジェクトと支出との関係】

2024 年度

「ねいらく」でのプレテスト実施にあたり、調査に必要となるコピー用紙やインク・トナー、分析用ソフトウェアの購入などを「消耗品費」の経費として支出した。また、データ分析を行うためのデスクトップ PC を「備品費」の経費として支出した。

「ねいらく」での活動の見学および調査打ち合わせ、生駒市教育関連施設の見学実習、その他関連学会への旅費・参加費として「旅費」や「その他」の経費として支出した。同時に「その他」として先行研究の動向を探るための関連図書を購入するための経費として支出した。

2025 年度

「フリースクール SINCE」での調査実施にあたり、調査に必要となるコピー用紙やインク・トナー、調査回答用紙のデジタルデータでの保存作業のためのスキャナーの購入などを「消耗品費」の経費として支出した。また、データ整理・分析作業のためのノート PC、および、整理・分析作業のための学生アルバイト雇用のため、それぞれ「備品費」「謝金等」の経費として支出した。2025 年度には実施が叶わなかったが、今後フリースクール等の不登校児への支援活動の場での実践活動の観察データ取得のためのビデオカメラも「消耗品費」の経費として支出している。

2. プロジェクト成果の発表

（論文名、発表者、発表雑誌等、巻・号、発表年等）

フリースクールに通う不登校児童生徒のQOLと心理社会的要因の関連：親の精神的健康・子どもの居場所感および強さと困難さに着目した予備的研究、野上 慶子・町田 奈緒士・狗巻修司、奈良女子大学文学部研究教育年報（22）2026年3月

3. 支 出 内 訳						
備 品 費		消耗品費	旅 費	謝金等	その他	計
品 名	金 額					
デスクトップ PC	円 206,580	円 769,581	円 194,380	円 113,718	円 81,571	円 1,519,610
ノート PC	153,780					